

「子どもが生き生きと学ぶ生活科」 ～気づきの質を深めるための活動や支援のあり方～

I. 研究の内容

1. 研究の具体的な内容と方法

東山梨地区生活科教育研究部会では、県のテーマを受けて、「気づきの質を深めるための活動や支援のあり方」をサブテーマとして、子どもたちの気づきを深めるための手立てや気づきの見取り方について研究を重ねてきた。

子どもが学習の主体者となり、一人ひとりが対象と積極的にかかわり夢中になって活動する生活科。その中で満足感のある確かな学びを得ていくためには、活動を通しての気づきを豊かにする支援が求められる。具体的活動や直接体験から生まれた気づきを大切に見取り、表現したり、交流したりすることで価値を深められると考える。

研究を深めるに当たり、石和西小学校の極楽寺眞理子校長先生、朝日小学校の永田敬子先生を講師に招いての理論や具体的な指導方法を教えていただいた。

また、2回の研究授業を通して、具体的な子どもの活動や姿を前に「気づき」を深める支援や見取り方について研究を深める機会とした。

さらに、今年度は日頃の実践や生活科にいかせる教材、資料を紹介し合うことにも取り組んだ。

具体的な体験活動、表現の仕方、友だちとの交流、見取りや評価を工夫することで、主体的な活動や気づきを深めるための手立てや迫り方が見えてきている。

2. 研究授業

(1) 第1学年「ぐんぐんそだて」 ～あさがおのことをもっと知ろう～

(授業者 井尻小学校 吉田 美穂先生)

あさがおの成長や変化の様子を種まきから夏休み後まで追い、その中で生まれた一人ひとりの気づきや発見、疑問を大切にして展開した授業実践であった。

毎朝の水やりの世話を通して気付いた事を観察カードに沢山書きためたり、子どものつぶやきを模造紙に書いて掲示したりすることで、あさがおの成長全体をふりかえる「クイズ」作りに取り組んだ。

クイズという形式は、低学年の子どもにとっては自然と興味がわく魅力的な活動となった。クイズは事実をつかんでいないと作ることはできない為、クイズ作りを通して観察の視点も高められていた。また、クイズに答えることで気付かなかった事やあいまいだった事について意識を深めることができていた。

クイズの答えについては1つに絞らず、「私のあさがおは・・・だった。」という意見をそれぞれが出し、子どもの感性が豊かに表現される授業であった。

(2) 第1学年「もうすぐわくわく 2年生」

(授業者 牧丘第一小学校 丸山英子先生)

入学してからの1年間を振り返り、「できるようになったこと」「がんばったこと」「じょうずになったこと」を見つけ、自分自身の成長に気付き、自信や感謝の気持ちへとつなげていく授業実践であった。

単元の1時間目であったが、子どもはできるようになったことを次々と発言することができた。また、1年間の成長を感じられるような様々な写真をスライドで提示することで、さらに成長への気付きが広げられた。

入学当初に書いた「自分の名前」と今とを比較する場面では、子どもたちが自分の成長を強く実感する場面となった。どちらも真剣に書いた文字なのに大きな違いがあることに気付き、どの子も自分の成長に満足し生き生きとした表情を見せていた。子どもの発言を丁寧に引き出し受け止め、成長に気付かせていくことで2年生も頑張ろうという次への展開へつなぐ授業であった。

II. 成果と課題

【成果】

- 子どもの持つ素直な気付きをもとにして、学習の広げ方の研究ができた。
- いっしょに授業案をつくっていくことで、共通理解がはかれ、授業観察をする際にも役立ちよかった。
- 日頃の実践を各校紹介し合ったことで、今まで知らなかった方法や取り組みなど知ることができた。授業の進め方やプリントなど、即実践できる物が多く、大変参考になった。
- 理論面の学習が講師の先生より指導いただくことができ、有用であった。
- 多くの人に見せるのは難しい生活科の授業を作るのは大変な中で、お2人の先生方には貴重な授業を提供していただき、その中でたくさんのことを学ぶことができた。
- お互いに授業を見あうことで様々な意見を具体的な事例に添って出しあうことが出来てよかった。授業研を積み重ねていることは東山支部の特徴でもあり、成果があると思う。
- 授業から対象とかかわる体験、そこから気付き活動を展開していくことが、生活科の基本だと確認できた。くり返しの中で子どもの気付きを深めること、体験の場を作り出すこと、心がうごく場面、夢中になり、発見すること・・・豊かでゆとりのある生活科を今後も探っていきたい。

【課題】

- ◎ 身近な自然や地域の特色を生かした題材についての学習をもっと深められたらよかったと思う。
- ◎ 生活科はもっとダイナミックに展開してもよいと思うが、授業研＝見せる授業という面では、しぼりが出てしまうように感じた。

(部長 金子 佐由美)